

Takeuchi M, Yasunaga H, Horiguchi H, Matsuda S.	The Incidence of pertussis hospitalizations among Japanese infants: excess hospitalizations and complications?	Epidemiol Infect	140(8)	1497-1502	2012
Takeuchi M, Osamura T, Yasunaga H, Horiguchi H, Hashimoto H, Matsuda S.	Intussusception among Japanese children: an epidemiologic study using an administrative database.	BMC Pediatrics	12	36	2012
Uchida K, Yasunaga H.	Impact of Remifentanyl Use on Early Postoperative Outcomes Following Brain Tumor Resection or Rectal Cancer Surgery.	Journal of Anesthesia	26(5)	711-20	2012
Sugihara T, Yasunaga H, Horiguchi H, Nishimatsu H, Kume H, Ohe K, Matsuda S, Fushimi K, Homma Y.	A Nomogram Predicting Severe Adverse Events after Ureteroscopic Lithotripsy: 12,372 Patients in Japanese National Series.	BJU Int	[Epub ahead of print]		2012
Okumura Y, Shimizu S, Ishikawa KB, Matsuda S, Fushimi K, Ito H	Characteristics, procedural differences, and costs of inpatients with drug poisoning in acute care hospitals in Japan	General Hospital Psychiatry	34	681-685	2012
Okumura Y, Shimizu S, Ishikawa KB, Matsuda S, Fushimi K, Ito H	Comparison of emergency hospital admissions for drug poisoning and major diseases: a retrospective observational study using a nationwide administrative discharge database	BMJ Open	2	e001857-	2012
Yamashita K, Ikai H, Nishimura M, Fushimi K, Imanaka Y.	Effect of certified training facilities for intensive care specialists on mortality in Japan.	Critical Care and Resuscitation	15(1)	28-32	2013
Sakai H, Muramatsu K, Matsuda S et al	DPC based situation analysis of generic antibiotics use among the Japanese acute care hospitals	APJDM	5	1-4	2011
Muramatsu K, Matsuda S, Hayashida K, et al	Do the Japanese cancer patients receive an appropriate psychiatric support at the acute care hospitals? - an evaluation trial by DPC based data -	APJDM	5	13-17	2011

Murata A and Matsuda S	How long should patients fast after endoscopic hemostasis for non-variceal upper gastrointestinal bleeding? Findings from a national administrative database	APJDM	5	5-11	2011
Sakai H, Muramatsu K, Matsuda S et al	How Does the Accuracy of ICD Coding Influence for Resource Consumption Under the Casemix Based Evaluation	APJDM	5	19-22	2012
Kuwabara K, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Contribution of the administrative database and the geographical information system to disaster preparedness and regionalization.	Am J Disaster Med	7	95-104	2012
Kuwabara K, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Reply to: Analytic Models for Comparing Open and Laparoscopic Gastrectomy.	Ann Surg	255(5)	e4-5	2012
Kuwabara K, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Associations Between the Use of Critical Care Procedures and Change in Functional Status at Discharge.	Journal of Intensive Care Medicine	DOI: 10	1177/0885066612453121.	2012
Kuwabara K, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Comparative study on the difference in functional outcomes at discharge between proximal and total gastrectomy.	Case Rep Gastroenterol	6	400-409	2012
Kuwabara K, Hagiwara A, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Are Fluids Containing L-Lactate Recommended for Clinical Practice? A Community-Based Comparison of Trauma Patient Outcomes between D- and L-Lactate Fluids.	American Journal of Emergency Medicine	31(1)	206-214	2013
Kuwabara K, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Association of early hemodynamic management with the outcomes of surgical procedures for subarachnoid hemorrhage.	Journal of Neurology	260(3)	820-831	2013
Kuwabara K, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Impact of early fluid management on outcomes among adult major burn patients.	International Journal of Intensive Care	19(4)	111-116	2012

Kuwabara K, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Coronary artery bypass graft and lung lobectomy: Functional outcome at discharge.	Journal of Clinical Medicine and Research.	[Epub ahead of print]		2013
Kuwabara K, Matsuda S, Fushimi K, Ishikawa KB, Horiguchi H, Fujimori K.	Comparative Study on the Short-term Functional Outcomes of Laparoscopic Intestinal Surgeries.	Health Policy and Technology.	[Epub ahead of print]		2013

參考資料集

1. 参考資料集の使い方

平成 24 年度厚生労働科学研究「診断群分類を用いた急性期医療、亜急性期医療、外来医療の評価手法開発に関する研究」報告書 付録の参考資料集の使い方

はじめに

この参考資料集には、DPC データ分析を効率よく行うためのノウハウやDPC 精度をよりよく理解するためのキーポイントがたくさん納められています。是非、これらを活用して、自分の病院や公開されている DPC データなどの分析を試みてほしいと思います。

この資料集には、

1. 平成 24 年度に研究班が開催した各種セミナーでの配付資料
2. 研究班で作成した平成 23 年度の DPC 病院厚生労働省公表データの分析ツール使用マニュアル
3. 別添 DVD-ROM
 - 本報告書 PDF ファイル(カラー版、白黒版)
 - セミナー配付資料とサンプルデータ
 - 分析用マスターデータ
 - 平成 23 年度の DPC 病院厚生労働省公表データ分析ツール

などが含まれています。添付の DVD-ROM には全ての資料が収録されていますので、院内などで自由にコピーして活用していただきたいと思います。

利用目的に応じたこの参考資料の使い方の例

目的に応じたこの研究報告書のデータの活用方法を次に記します。これを参考に、興味のあるテーマから初めていただければ良いと思います。もちろん、ここに書かれていることだけに制限されるものではありません。いろいろな形で、この報告書のデータが活用されることを願っています。

1. DPC 診断群分類と包括評価制度をより深く理解したい方

総括研究報告と分担研究報告を参考に、研究班セミナーの PDF 資料を見ていただければ、DPC 診断群分類の概要、現在の課題などが理解できるでしょう。セミナー配付資料の総論・コーディング編と付録 DVD-ROM 内の「04_DPC セミナー配布資料(元サイズ)」フォルダ内にセミナーでの配付資料が入っていますので、講義の内容を知ることができます。8月6日・7日の産業医大でのセミナーの内容が網羅的でわかりやすいと思います。

2. 院内などの DPC データを使った分析を試みたい方

DPC データを使った分析例は、分担研究報告書にたくさん含まれています。それらと研究班セミナーの PDF 資料を見ると、DPC データにはどのような情報が含まれているのか、どのような分析ができるのかが理解できると思います。セミナー配付資料の診療プロセス分析編、医療の質評価編、地域医療分析編は基礎知識を得るための参考となります。データ分析演習編で実際の分析がどのようなものかを理解してください。

実際の分析手法は、セミナーでの演習の資料を活用して学んでください。サンプルデータを含めて、付録 DVD-ROM 内の「04_DPC セミナー配布資料(元サイズ)」フォルダ内にセミナーでの配付資料を見ながら、ほぼ実際の演習と同じ事を学習することができます。8月6日・7日の産業医大、9月15日の岡山、10月6日の盛岡、10月27日の高知、25年1月26日の神戸などでのセミナーの演習の資料を活用してください。

実データを使って分析を行うときには、様々なマスターデータが必要になります。DPC の定義表、レセプト電算コードなどのマスターがないと、コードの意味を理解することができません。多くの場合は、自分でこのようなマスターを搜したら、作成したりする必要があります。この研究報告書の DVD-ROM にはそのようなマスターがあらかじめ用意されているので、手間のかかる準備をせずに分析を始めることができます。DVD-ROM の「05_研究班作成DPCデータ分析用マスター」フォルダ内には、レセプト電算コード、手術 K コード、化学療法、血液製剤などのマスターが入っていますので、

これらを使って、データをわかりやすく加工することができます。

3. 厚生労働省の DPC 病院公表データを使って、地域医療分析を試みたい方

厚生労働省は毎年 1 回 DPC 病院の傷病別の患者数や平均在院日数などを病院の実名入りで公表しています。この資料は、地域の急性期医療の実態を知り、自院の地域での役割や機能分担のあり方を考えていくために貴重な情報源となります。しかし、このデータは、エクセルの表形式で配布されているものの、集計や分析の取扱いが難しくなっています。そこで、研究班では、この公表されているデータを加工して、データベース化し、エクセルのピボットテーブルで簡単に地域の医療機関の患者数などを集計、可視化するツールを作成し、配布しています。

データは、付録 DVD-ROM の「06_研究班作成配布プログラムとデータ」フォルダの「平成 23 年度厚労省公表データ DPC 病院データベース」フォルダ内に入っています。都道府県別のデータベースとして作られていて、病院別、傷病別、手術有無別などで簡単に集計、グラフ化することができます。

これらのデータを使って、地域医療を分析する方法は、セミナー配付資料の地域医療分析編とデータ分析演習編に解説があります。実際の分析手法は、セミナーでの演習の資料を活用して学んでください。サンプルデータを含めて、付録 DVD-ROM 内の「04_DPC セミナー配布資料(元サイズ)」フォルダ内にセミナーでの配付資料を見ながら、ほぼ実際の演習と同じ事を学習することができます。8 月 6 日・7 日の産業医大、10 月 6 日の盛岡、10 月 27 日の高知などでのセミナーの演習の資料を活用してください。

さらに、これらのデータをより詳細に分析したい場合は、Qlikview というソフトを使用する方法が紹介されています。8 月 6 日・7 日の産業医大、10 月 6 日の盛岡、10 月 27 日の高知などでのセミナーにその資料がありますので、是非、活用してください。

4. より高度な地理情報 GIS 分析を行ってみたい方

平成 22 年度からは DPC データ様式 1 に患者住所の郵便番号が記録されるようになり、地理情報分析を行いやすくなっています。機能評価係数Ⅱに地域患者シェアなどが取り入れられ、地域における自院の役割を認識することは今後ますます重要になりそうです。自院で持っている患者住所情報などを DPC データにつなげることができれば、さらに詳細な地理情報 GIS 分析を行うことができます。

平成 23 年度の研究からは、郵便番号データの利活用の促進の観点から、特に GIS 分析の普及に力を入れています。GIS 分析は、インパクトがとても大きい分析結果を出せる強力な地域医療可視化ツールですが、分析ソフトが高いことがネックでした。

そこで、研究班では、最近充実してきている無償の GIS 地理情報分析システムソフトを活用するためのセミナーを実施しています。それらの資料は 8 月 6 日・7 日の産業医大、9 月 15 日の岡山、10 月 27 日の高知の資料に含まれています。

資料には、無償 GIS 分析ソフト QGIS の基本的な使用方法、地理情報関連のマスターデータの入手方法が含まれていますので、誰でも簡単に無償で GIS 分析を始めることができます。

5. 公開用の病院指標を作るための分析を行ってみたい方

今後、DPC 病院は自院のデータを集計、分析して、基本的な指標を公表することが求められています。実際に自院の DPC データからこれらの指標を作成することは、それほど難しいことではありません。これらの指標を作るための分析を行うことで、自院のデータの質の評価や、診療の課題などが見えてきます。セミナー配付資料のデータ分析演習編に解説があります。具体的な方法は、付録 DVD-ROM 内の「04_DPC セミナー配布資料(元サイズ)」フォルダ内にセミナーでの配付資料を見ながら、ほぼ実際の演習と同じ事を学習することができます。8 月 6 日・7 日の産業医大、25 年 1 月 26 日の神戸の資料が参考になると思います。

2. DPC 研究班開催

「DPC 制度の適正運用と DPC データ
活用促進のためのセミナー」配付資料

平成 24 年度に実施した DPC 研究班開催
「DPC 制度の適用と DPC データ活用促進のためのセミナー」一覧

日時	場所	会場	内容
6 月 30 日(土) 13:00-17:00	鹿児島	南風病院 アネックス- I	GIS 演習
8 月 6 日(月)10:00-17:00 7 日(火)10:00-15:30	北九州	産業医科大学	講演および演習
9 月 15 日(土) 13:00-17:00	岡山	岡山済生会総合病院	GIS 実習
10 月 6 日(土) 13:30-17:00	盛岡	岩手医科大学 循環器医療 センター9階 第一講義室	E/F ファイル分析実習
10 月 11 日(木) 13:00-17:00	佐世保	佐世保第一ホテル 鶴の間+亀の間	講演 (病院マネジメント)
10 月 27 日(土) 13:00-17:00	高知	高知大学	講演・実習
11 月 19 日(月) 13:00-18:00	東京	東京大学 伊藤国際学術研 究センター	講演
12 月 1 日(土) 13:00-17:00	仙台	仙台医療福祉専門学校	講演
12 月 15 日(土) 13:00-17:00	札幌	北海道大学 医学部	講演
1 月 26 日(土) 13:00-17:00	神戸	神戸大学 医学部会館 シス メックスホール	講演・演習

鹿児島会場(6月30日)

時間	内容
13:00-13:20	総論(伏見)
13:20-15:45	GIS 実習(藤森)
16:00-17:00	GIS 応用分析編(石川)

北九州会場(8月6日)

	大ホール	小ホール
8月6日(月)		
10:00-11:00	今までの研究班成果の紹介(伏見)	-
11:15-12:15	DPC データ分析事例報告(産業医大)	-
13:30-14:30	DPC とパス(小林・池田)	GIS 分析実習(堀口)
14:45-15:45	DPC と医療の質(猪飼)	EF 分析実習(藤森・堀口)
16:00-17:00	DPC と疾病コーディング(阿南)	-
8月7日(火)		
10:00-11:00	GIS 分析(石川)	様式1 分析実習(藤森)
11:15-12:15	DPC と臨床研究(康永)	Qlikview 分析実習(松田)
13:30-15:30	DPC と病院マネジメント(松田・林田)	-
14:30-15:30	DPC と地域医療(松田)	-

岡山会場(9月15日)

時間	内容
13:00-13:20	今までの研究班成果の紹介(伏見)
13:20-13:50	GIS とは(堀口)
13:50-15:45	GIS 実習(藤森)
16:00-17:00	GIS 応用分析編(石川)

盛岡会場(10月6日)

時間	内容
13:30-17:00	E/F ファイル分析演習(松田)

佐世保会場(10月11日)

時間	内容
13:10-14:00	DPC 病院の今後(伏見)
14:00-14:50	DPC データによる病院マネジメント(岩渕)
15:00-15:50	医療の質のマネジメント(小林)
15:50-16:40	地域患者マーケティング(石川)

高知会場(10月27日)

時間	内容
13:10-14:00	研究班の今までの研究成果の紹介(伏見)
14:00-14:50	DPC と地域医療(久保)
15:00-15:50	Qlikview 分析実習(藤森)
15:50-16:40	GIS 実習(堀口)

東京会場(11月19日)

時間	内容
13:00-13:50	研究班の今までの研究成果の紹介(伏見)
13:50-14:40	DPC と地域医療(久保)
14:50-15:40	DPC と医療の質(猪飼)
15:40-16:30	GIS 分析(石川)
16:50-17:50	DPC と臨床研究(康永)

仙台会場(12月1日)

時間	内容
13:00-13:55	研究班の今までの研究成果の紹介(伏見)
14:00-14:55	DPC データによる診療支援と経営支援(岩渕)
15:00-15:55	DPC と疾病コーディング(阿南)
16:00-16:55	GIS による DPC データの分析(石川)

札幌会場(12月15日)

時間	内容
13:00-13:45	研究班の今までの研究成果の紹介(伏見)
13:40-14:30	DPC データによる診療支援と経営支援(岩渕)
14:40-15:25	分析データの使い方/伝え方(鈴木)
15:25-16:10	GIS による DPC データの分析(石川)
16:15-17:00	DPC データを使って論文を書こう(松田)

神戸会場(1月26日)

時間	内容
13:00-13:15	研究班の今までの研究成果の紹介(伏見)
13:15-14:10	病院での DPC データ分析の実例(岩渕)
14:20-17:00	DPC データ分析演習(藤森・石川・村松)

平成 24 年度 DPC セミナー資料

総論・コーディング編

DPC研究班の今までの研究

東京医科歯科大学大学院
医療政策学講座医療政策情報学分野
伏見清秀

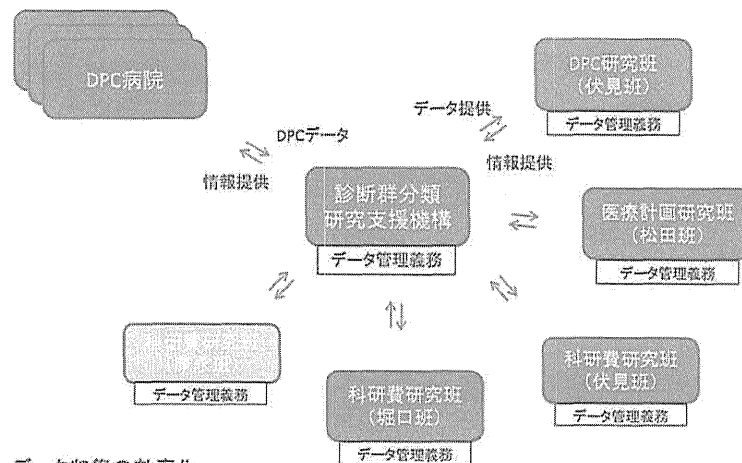
2012年8月6日

平成24年度DPC夏期セミナープログラム

8月6日(月)	大ホール	講師	8月6日(月)	小ホール	講師
10:00-11:00	今までの研究班成果	伏見			
11:15-12:15	DPCデータ分析 事例報告 昼食	産業 医大			
13:30-14:30	DPCとパス	小林・ 池田	13:30-14:30	GIS分析実習	堀口
14:45-15:45	DPCと医療の質	猪飼	14:45-15:45	EF分析実習	藤森・ 堀口
16:00-17:00	DPCと疾病コーディング	阿南			
8月7日(火)	大ホール	講師	8月7日(火)	小ホール	講師
10:00-11:00	GISによるDPCデータの 分析	石川	10:00-11:00	様式1分析実習	藤森
11:15-12:15	DPCと臨床研究 昼食	康永	11:15-12:15	Qlikview分析実習	松田
13:30-15:30	DPCと病院マネジメント	松田・ 林田			

(場所:福岡県北九州市産業医科大学)

一般社団法人 診断群分類研究支援機構を介した 研究班へのデータ提供について



データ収集の効率化

- 年度を越える通年のデータ収集
- データ提供管理の一元化

一般社団法人 診断群分類研究支援機構 設立の趣意

(英文名称: DPC Research Institute、略称: DPC研究支援機構)

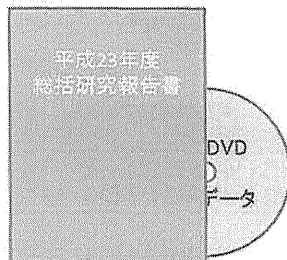
- 我が国で診断群分類Diagnosis Procedure Combination(DPC)が開発され、急性期入院医療の包括評価に用いられるようになってから8年以上が経過し、DPCを用いた医療経営分析、診療の質の分析、地域医療分析等の手法が開発され、DPC医療情報データを活用する可能性が広がっている
- DPC医療情報データの取り扱いには、専門的な知識と技術の蓄積が必要であり、継続的にDPCデータの取り扱いを支援する組織が必要
- 診断群分類に関する医療情報の健全な利用を促進し、関連する研究等の活動について安全・円滑な実施を支援することを目的として、「一般社団法人診断群分類研究支援機構」を設立
- 本法人は、データ収集、分析用データベース作成支援、分析用データベース提供、データ分析に関する支援、データ提供施設に対する支援などの業務を行い、診断群分類に関する医療情報の利用の促進を図る

代表理事 松田晋哉
理事 伏見清秀
監事 西岡清

平成23年度の研究報告

○研究班セミナーの開催

日時	場所	会場	内容
7月23日(土)	札幌	北海道大学医学部管理棟大講堂	講演
8月8日・9日	北九州	産業医科大学ラマツィーニホール	講演および演習
10月10日(祝)	名古屋	名古屋市立大学病院大ホール	講演
11月19日(土)	東京	日本工学院専門学校ITカレッジ(蒲田)	講演
12月3日(土)	札幌	北海道大学医学部第3講義室	GIS演習のみ
12月10日(土)	京都	京都大学医学部第二臨床講堂	講演及び実習
1月28日(土)	神戸	神戸大学医学部会館シスメックスホール	講演
2月4日(土)	盛岡	岩手医科大学循環器医療センター	講演及び実習
2月18日(土)	東京	東京医科歯科大学	GIS関連セミナー
3月24日(土)	福岡	九州大学医学部	GIS演習



○データ資料の配付

- ・セミナー等の配付資料
- ・GIS分析ツール
- ・厚労省公表データ分析ツール
- ・各種分析用マスター

平成23年度総括研究報告書別添DVD収録内容

1. 本報告書PDF版(白黒、フルカラー)
2. 研究報告書追加資料
 - ①『あるべき診断群分類』の作成と、それと『平成22年度診断群分類臨床フラグ、支払対応コードに基づく分類』との比較研究の追加資料
 - ・エクセル版CCPマトリックス用フラグ付き平成22年度DPC定義テーブル
 - ②がん入院化学療法ポートフォリオ
 - ③H22保険局DPC調査に基づく運転時間による診療圏ポートフォリオ
 - ④DPCデータに基づく医療の質と効率性の評価・指標化に関する研究
3. DPC 研究班開催「DPC 制度の適正運用とDPC データ活用促進のためのセミナー」配付資料
 - ①平成23年度レセプト電算コードマスター
 - ②平成23年度手術Kコードマスター
 - ③平成23年度化学療法マスター
 - ④平成23年度血液製剤マスター
 - ⑤平成22年度DPC定義表正規化テーブル
4. 研究班作成DPCデータ分析用マスターファイル一式
 - ①平成22年度DPC病院データベースと分析ツールデータ
 - ②QGIS用プラグイン
5. 研究班作成配布プログラムとデータ
6. 研究成果刊行物別刷PDF

平成24年度の予定

○研究班セミナーの開催

日時	場所	内容
2012年6月30日(土)	鹿児島	講演・GIS演習
2012年8月6日・7日	北九州	講演・演習
2012年9月15日(土)	岡山	講演・GIS演習
2012年10月11日(木)	佐世保	講演(病院マネジメント)
2012年10月27日(土)	高知	未定
2013年1月26日(土)	神戸	未定
未定		

○データ資料の配付

- ・未定

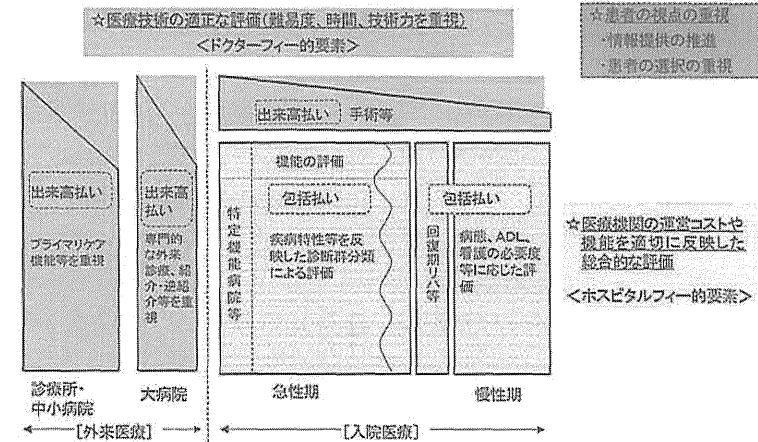
平成23年度研究報告書 付録参考資料集の使い方(1)

- ・ DPC診断群分類と包括評価制度をより深く理解したい方
 - 研究班セミナーのPDF資料を見ていただければ、DPC診断群分類の概要、現在の課題などが理解できます。
 - 付録DVD-ROM内にセミナーでの配付資料
 - 8月8日・9日の産業医大でのセミナーの内容が網羅的

平成23年度研究報告書
付録参考資料集の使い方(4)

- 高度な地理情報GIS分析を行ってみたい方
 - 地域における自院の役割を認識することはますます重要
 - 無償のGIS地理情報分析システムソフトを活用するためのセミナー
 - 8月8日・9日の産業医大、12月3日札幌、1月28日神戸、2月18日東京、3月24日福岡
 - 無償GIS分析ソフトQGISの基本的な使用方法、地理情報関連のマスターデータの入手方法
 - 「QGIS用プラグイン」のプログラムを使うことで、エクセルなどで用意した患者属性などのデータを地図上に表示

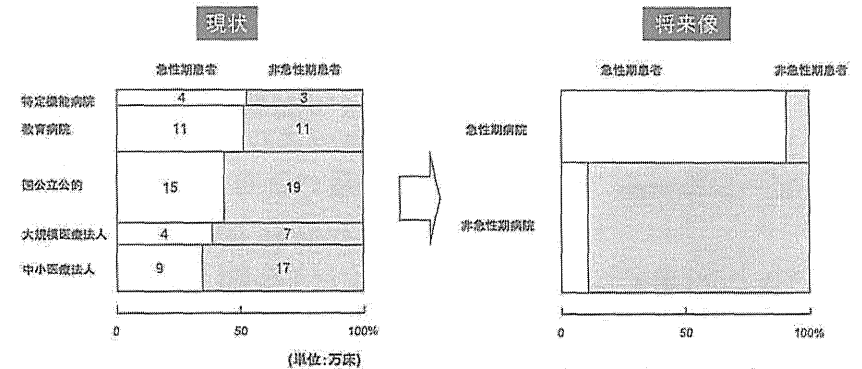
診療報酬体系の見直し



平成24年度以降のDPC関連研究の方向性

- 「診断群分類を用いた急性期医療、亜急性期医療、外来医療の評価手法開発に関する研究」(H24-政策-指定-012)
 - 急性期医療のみならず亜急性期、慢性期、外来医療を含めた医療提供体制のあり方に関する研究
 - 医療機能分化、医療連携の促進等に向けた研究
 - 医療機関機能評価、医療の質の評価の充実に向けた研究

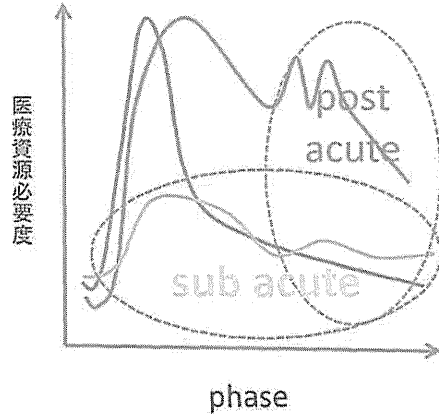
一般病床の医療機能分化の状況



急性期患者:手術を実施、または在院日数30日以下の一般病床退院患者
非急性期患者:急性期患者以外の一般病床退院患者

急性期医療と亜急性期医療

- 亜急性期
 - post acute ?
 - sub acute ?



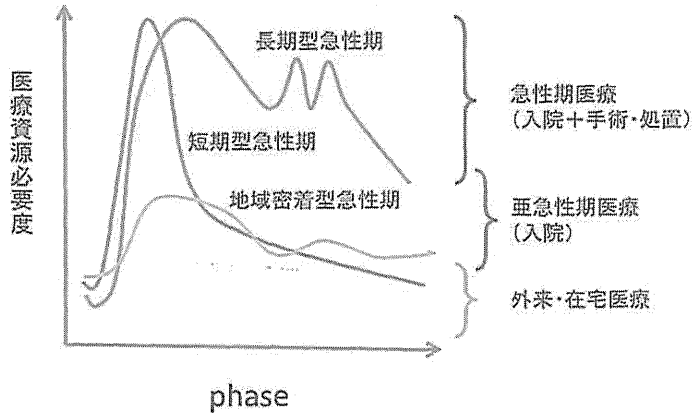
(2) 入院・施設・居住系サービス基盤(利用者を支えるベッド数・定員数等)のシミュレーション

	現状(2007年)	2025年			
		Aシナリオ	B1シナリオ	B2シナリオ	B3シナリオ
急性期	【一般病床】103万床 78% 20.3日	【一般病床】133万床 78% 20.3日 (参考) 急性: 15.5日 高度急性: 20.1日 一般急性: 13.4日 亜急性期等: 75日	80万床 70% 12日 一般病床の職員の 58%増 (急性病床の20%増) 【施設定員数】 140万人/月	67万床 70% 10日 一般病床の職員の 100%増 【施設定員数】 141万人/月	【高度急性】26万床 70% 30万人/月 16日 一般病床の職員の 116%増 【一般急性】49万床 70% 113万人/月 9日 一般病床の職員の 80%増
亜急性期・回復期等	【施設定員数】 118万人/月	52万床 90% 19万人/月 75日 コメディカル等を 20%増	44万床 90% 20万人/月 60日 コメディカル等を 30%増	40万床 90% 20万人/月 60日 コメディカル等を 30%増	
長期療養(医療療養)	23万床 93%	39万床 93%	21万床 98%	23万床 98%	
介護施設 特養 老健	84万人分 42万人分 42万人分 (老健+介護施設)	169万人分 85万人分 83万人分	146万人分 76万人分 70万人分	149万人分 78万人分 72万人分	149万人分 78万人分 72万人分
居住系 特定施設 グループホーム	25万人分 11万人分 13万人分	47万人分 22万人分 25万人分	68万人分 33万人分 35万人分	68万人分 33万人分 35万人分	68万人分 33万人分 35万人分

(注) 各欄数字については、上段はベッド数など数値、中段はその平均稼働率、下段は平均在院日数。その下に、人員配置を強化する場合の内容を記載。

229

急性期医療と亜急性期医療



患者調査に基づく病院病床機能区分の推計

病床種別 (病床数・平成17年)	在院日数	1ヶ月 あたりの 退院患者数	平均 在院日数 (日)	必要病床数	区分	平均 在院日数 (日)	必要病床数 (千床)
一般病床 (904千床)	-7	395,200	4	57,400	急性期	13	484
	8-14	229,100	11	93,400			
	15-21	119,000	18	80,500			
	22-30	83,500	25	82,300			
	31-60	104,600	42	170,700			
	61-90	34,700	73	98,600			
	91-120	14,900	103	59,300			
	121-180	9,900	145	55,500	亜急性期・慢性期	187	787
	181-365	5,600	237	51,400			
	366-	2,800	1,716	187,400			
療養病床 (359千床)	-90	24,300	36	32,400	精神科		354
	91-120	4,600	104	17,300			
	121-180	5,000	148	27,000			
	181-365	4,700	246	41,900			
366-	5,300	1,126	216,200				

(伏見、2010)